

## Y校アーカイブ vol. 19 「乃木希典による表忠碑の揮毫」

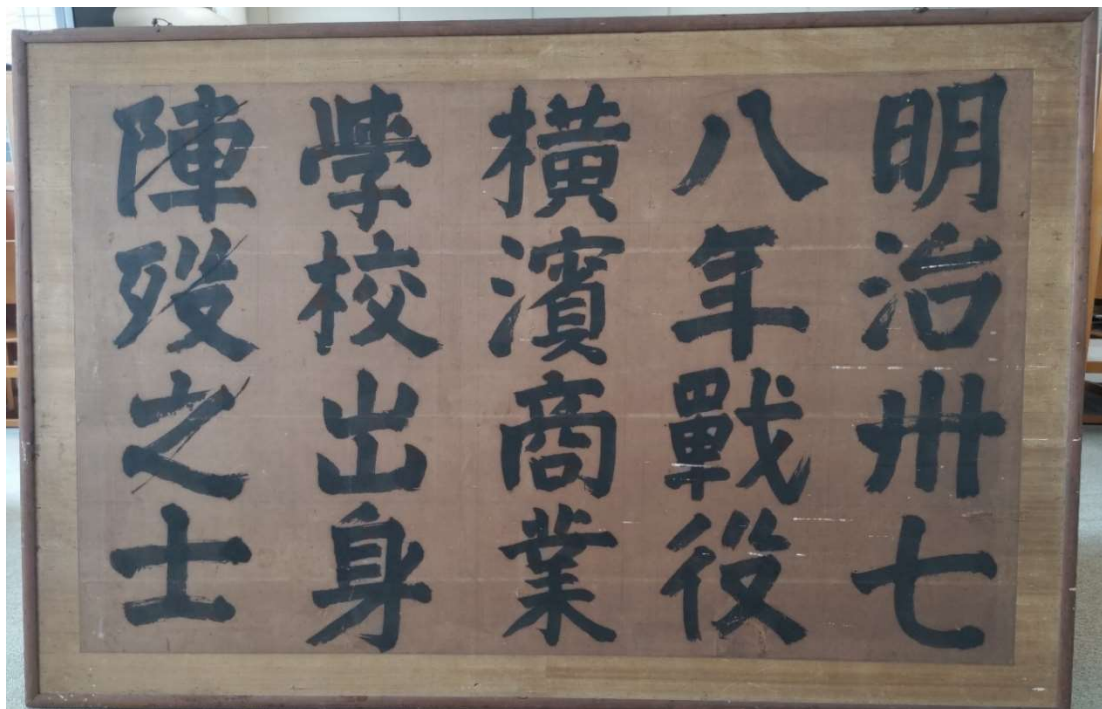
京浜急行の日ノ出町駅やJR桜木町駅にほど近い伊勢山皇大神宮の境内に、明治37、38年の日露戦争で亡くなった12名のY校出身者のための慰霊碑が建立されていますが、その経緯がY校の初代校長のことを記した『美澤先生』(Y289ヤ)という本に詳しく書かれていました。その概要は、『同窓会で慰霊碑建設の議が起こり、戦死者の多くが従軍していた第三陸軍の乃木希典大将に揮毫を依頼しようと決まって、美澤先生が乃木家を訪問した。はじめは行書で「忠魂碑」と書いてもらったものの、神社に「魂」の字は困る、となり、「表」の文字だけ書き直してもらおうと再度乃木家を訪れたところ、「それは筆力が統一せぬばかりか、正気が整わぬ故、全部を書き改めましょう」と今度は篆書(てんしよ)にて「表忠碑」と書いてもらった。しかし署名がなかったことに後から気づき、三たび乃木家を訪れて「希典書」の文字を入れてもらった』ということでした。



今回紹介するのは、その表忠碑の上部の「乃木希典直筆の書」です。縦に四文字ずつ五行に渡って「明治卅七八年戦役横濱商業学校出身陣歿之士(めいじさんじゅうちちはねんせんえきよこはましようぎょうがっこうしゅっしんじんぼつのし)」と書かれています。乃木希典の揮毫による日露戦争戦没者の慰霊碑は、字体もさまざまに日本全国に点在しているようですが、鶴見の花月園競輪場跡地にある「明治卅七八年戦役記念碑 希典書」と書かれた慰霊碑とはほぼ同じ字体と思われる。軽い木枠の大きさは、縦112cm、横172cm、中の書は縦83cm、横153cmです。

気になるのは最後の行にある「陣歿之士」の三文字に斜線が引かれていることです。斜線の墨の色が少し鮮やかなので、後年に加えられたものだと思います。「陣歿」とは病死なども含め戦死することをいいますが、なにかそこに引っかかるものがあつた人が思わず斜めに線を走らせたのでしょうか。

『Y校百年史』に掲載されている写真にもすでにこの線が引かれているので、少なくとも41年以上前のいつか、どのようなドラマがあつてこの線が引かれたのか、今となってはわかりません。



明治卅七八年戦役横濱商業学校出身陣歿之士